

2015.2

編集発行人・吉田隆司

毎月1回、1日発行
定価1部100円/1年1000円(送共)
郵便振替 東京00100-0-38184

〒112-0004東京都文京区後楽1-5-3
TEL. 03-3814-3591
FAX. 03-3814-3590

Website: <http://www.rizhong.org/>
E-mail: info@rizhong.org



A先生の新語コーナー



xīn xiāo fǎ “新消法”

改正された消費者権益保護法を指す。中国はこの法律を約20年ぶりに改正し、昨年3月15日から正式に実施されている。改正法は通信販売される商品についてクーリングオフ制度を新設し、消費者は商品を受け取った日から7日以内であれば、理由を説明せずに返品することが可能となった。また、個人情報の保護は事業者の義務であるとし、事業者は個人情報収集、使用の際、その目的、範囲を明示し、消費者の同意を得なければならないとしている。(A)

中国から日本へ

一谷川俊太郎氏との出会い

田原先生は河南省漯河(漯河 Luòhé)の出身で、ご出身の河南省が文化の発祥の地であることを中国語でご説明くださいました。ご自身の中国語の詩作については高校時代に「処女作」(未発表)を作られ、大学時代には詩集を刊行なさっています。教育部の派遣で大学から選ばれて日本へ留学されましたが、来日後2年間くらいは日本語で創作活動をされるのが非常に難しいと感じられ、帰国したい気持ちに駆られたこともあったそうです。ひょんなことから大学で講義をする折に谷川俊太郎氏の詩に出会い、非常に面白いと感じられました。当時中国の詩人のあいだでは日本の詩人には尊敬に値する詩人がいるとは思われておらず、田原先生もそのお一人でした。しかし、谷川俊太郎氏の詩に出会ってから氏の作品に魅了され、翻訳を手がけるようになり、その作品の多くが田原先生を通じて中国に紹介され、それらは転載を重ねて広く中国に知られるようになりました。その谷川俊太郎氏に対して、田原先生は「天才の中の天才」と言い、現在まで親しく交流される中で氏の生き方に学んだところが大きいとおっしゃいます。それは谷川俊太郎氏の「勤勉に本を読み、考え、書く」という姿勢です。ただの天才は蓄積(=読書)を作らず、すぐにその創作生命は終わってしまうのですが、谷川俊太郎氏は蓄積を絶えず怠らないがゆえに、自身を超えられる、すな

わち自分自身の一つの文体に縛られずさまざまな文体を駆使して創作できるのです。それだからこそ時代を超え、時代に淘汰されずに読み継がれる作品を書いているのだと田原先生は評しています。また谷川俊太郎氏は一度書いた詩に何度も手をいれるのですが、それはよく思考しているからであって、田原先生自身は書き直すことはあまりしないのですが、書く前に頭の中で言葉を何度も練り、よく考え、推敲しています。「勤勉に本を読み、考え、書く」ことはとても大切なことなのです。

中国現代詩の概要

中国現代詩の歩みについて簡単にお話しいただいた内容としては、中国における現代詩は1917年に雑誌「新青年」に発表された胡適(胡适 Hú Shì)の論文と詩によって古典詩と決別し、本当の意味で現代詩が始まったと言えます。そして次の大きな節目となる朦朧詩の登場までに何人かの優れた詩人が現れました。後の時代に大きな影響を与えた詩人としては艾青(艾青 Ài Qīng)が挙げられますが、残念なことに彼は反右派闘争や文化大革命の時期に批判されて新疆地区で強制労働を強いられ、長い間、詩作ができませんでした。また、1930~40年代に優れた作品を発表したモダニズムの代表的詩人・戴望舒(戴望舒 Dài Wàngshū)も非常に重要です。その後50年代を経て、60年代は現代詩の空白期だったと思います。ほかに有名な詩人としては、現代詩

の創世記にロマン主義の処女詩集『女神』を出した郭沫若（郭沫若 Guō Mòruò）が挙げられますが、後の彼の政治的な姿勢は浅薄で、詩人として田原先生は認めないとおっしゃいました。

1978年の朦朧詩の登場によって中国の現代詩は大きな転換期を迎えました。詩人・北島（北島 Běi Dǎo）と芒克（芒克 Máng Kè）によって北京で創刊された民間の雑誌《今天》から誕生した詩人たちは「朦朧詩派」と称され、また「今天派」とも呼ばれます。これらの詩人の作品はそれまでの詩とは全く異なる作風だったので「朦朧詩」と呼ばれたわけですが、「朦朧」（「あいまいである、朦朧とする」）は相応しくないように思うと田原先生は考えます。

もう1人、中国現代詩において注目すべき詩人に、西川（西川 Xī Chuān）が挙げられますが、この人の詩集が来春ごろに翻訳出版される予定です。

母語と外国語の「闘争」

田原先生は現在日本語でも詩の創作をなさいますが、やはり自由自在に書けるのは母語とおっしゃいます。それは、詩以外のその他文章はともかくとして、詩に関しては「単語の背景にある歴史や、その単語を使用する民族の暗黙の了解のようなものがわからないと書きにくい」からなのです。母語、母国の習慣、縛りから離れて思考する、書くというのは非常に大変で、母語（中国語）と外国語（日本語）が「闘争する」とおっしゃいます。田原先生の作品はスケールが大きいと評されますが、それは育った環境、河南省という中原の平原で育ち、地平線を毎日見て育ったために物の見方もその影響を受けているのです。日本の環境とはかなり違う状況です。

その意味で本当のバイリンガルというのを考えますと、林語堂（林語堂 Lín Yǔtáng）は自由主義の人でしたが、ほんとうに母語を乗り越えて作品を作るという真のバイリンガルだと言えます。田原先生は日本語の詩作活動においては、常に辞書をかたわらに、いい言葉、別の言い方を探求し、言葉を捜しておられるそうです。

日本語と中国語—翻訳のプロセスで思うこと

田原先生が思うに日本語は情緒的な女性的な言語だそうです。一方中国語は論理的な言語です。先生が翻訳をされる上で思うのは、情緒的な日本語

と論理的な中国語の双方の特徴を翻訳するのは非常に難しいということです。例えば俳句の翻訳を例にとると、俳句を漢俳という形で訳すとその情緒が出ず、異なったものになってしまい、ある種俳句は翻訳を拒む作品と言えるかもしれないとおっしゃいます。谷川俊太郎氏の作品では「いるかいるか いるかないか…」のような「ことばあそびうた」は、リズムはあるけれど全て平仮名で、日本語の同音異義を多用した言葉遊びとなっているため意味が取りにくく、非常に翻訳しにくいものです。本来日本語は4つの表記法「漢字、平仮名、カタカナ、ローマ字」があって、それをバランスよく使用して表記されるロマンチックな言語だと田原先生は思うそうですが、谷川俊太郎氏の「ことばあそびうた」はそのルールを破ったもので、田原先生は谷川氏に冗談で文句を言ったこともあるそうです。

翻訳という意味では、翻訳する対象によってもその翻訳の成功不成功、翻訳できるかできないかは大きく異なります。先生は「翻訳する対象に愛を感じなければ」とおっしゃいます。田原先生は谷川俊太郎氏の作品を愛し、その作品に敬服するからこそ、氏の作品の翻訳については時にはご自身の作品のように楽しんで翻訳ができるのだとおっしゃるのです。また詩それぞれの風格・世界観も翻訳の難度に影響するそうです。谷川俊太郎氏の詩は宇宙的な広がり、普遍性をもっています。一方中原中也の作品も翻訳したことがあるそうですが、これは成功しませんでした。なぜなら中也の作品には翻訳を通じて、自国以外の場所に出て行く普遍性がなく、閉鎖的な内容であることが考えられます。作品としての善し悪しということではなく、諸外国の言語に訳して共感を求められるような内容とは言いづらいということなのです。反対に中也と同時代のロルカ（スペインの詩人）の作品は数多く翻訳されており、その作品には越境的なものがあるということなのです。

現代詩は「感性」

谷川俊太郎氏の作品、北島の作品、田原先生の作品のいずれもそのときを反映し、その時に触発された作品があります。田原先生の作品で言えば沖繩を訪れて書いた「墓」、イラク戦争勃発を目にして書いた「記憶」などですが、詩人というものは「その民族の精神的質感の代表者」だとおっしゃいます。そういう精神が反映されるのが現代詩ですか

ら、言葉の意味を深く追求するというより感じる
ことが大切です。翻訳においてはかなり柔軟性をも
ったある程度の意識が必要です。そのまま訳しても伝
わらないのです。その詩を何度も読んで全体を理解
して訳します。

北島は現在、香港中文大学の教授ですが、今も
現役の詩人として活躍しています。「現代詩手帖」
2014年8月号に彼の新作17篇が「零度以上の風景」
として、田原先生の翻訳で掲載されました。そのと
き田原先生は次のように書かれました。「北島の一
部の詩は、言語のパスワードが必要であるかのよう
に、まるで詩の入り口に鍵をかけているようにも思
われる。『詩の門』をロックすることが詩人の気質
と表現法に由来したもので、無意識プラス少しの意
識によってできたと考えられる。そのため、彼の詩
の深い内部に入り込んで解説することは容易なこと
ではない。」と。

北島の作品も初期は分かりやすいものでしたが、
だんだんメタファーが強く、わかりづらいものが多
くなっています。

感性を重視して読むべきですが、翻訳において
はその詩全体を理解した上で、ぴったりだと思いう

葉を探します。外国人としては、その母語のポエム
の中で必要とされる単語も知らないし、辞書に記載
のない、でもそれを母語とする人ならわかるような
単語も知らないのも、他人に尋ねたりもしながらあ
らゆる言葉を疑って調べてその詩に合う言葉を探す
のだそうです。

現代詩は読者を選びます。もちろん読者も詩を選
びますが、現代詩は読者を選び、必ずいい読者が
その詩を待っているものなのです。

(以上)



酸甜苦辣五七五



喜欢买东西	買い物好きで、
什么东西都想买	何でも買いたい
但是没有钱	しかし、買うお金がない。



先日、大学の中国語クラスで、ミニ句会形式で投票をしたら、堂々と第一位に選ばれた、シンプ
ルかつユーモアのある一句です。見渡す限り、物で溢れている世の中、たいして必要もないのにつ
い買ってしまふものもあるのではと思いますが、お金を持っていないため、衝動買いや無駄遣いを
せず済むこともあるでしょう。また、お金があっても、買えないものもあります。薬は買えても健
康は買えない、本は買えても知識は買えない、時計は買えても時間は買えない、武器は買えても平
和は買えないと言ったところでしょうか。どうにかすれば買えるような気もしますが、しかし、若
返りのサービスが買えても、青春が買えないというのは、間違いのない事実のようです。

『聴く中国語』（2月号P92より）

～本科学研究科 授業報告～

本科学研究科 異文化コミュニケーションの授業で発表された、作文をご紹介します。

漫谈饮酒

本科学研究班 中西真

从古至今,酒和人们的生活关系很密切。饮酒不仅成为人们的一种嗜好,而且已深入到社会生活的各方面,特别是交往和待客方面。同样,这也是我们日本人日常生活不可缺少的组成部分。

中日两国是一衣带水的近邻,两国之间的交往有着悠久的历史。但是,由于时间的流逝,两国的文化却不尽相同。在饮酒方面也派生了各自的习俗。

在中国千百年来,酒与人们的生活结下了不解之缘。古人认为,无酒不成礼,无酒不成欢,无酒不成敬,特别是祭祀天地、祖宗,非酒不行。现在中国人请客吃饭时,主人不断地给客人劝酒,甚至逼酒。“酒逢知己千杯少”,以醉为衡量心诚的标志。

酒还有消愁解闷之功。中国古诗词中有关酒的描写很多。虽然有表达欢乐的心情,但绝大多数离不开一个“愁”字。如李白的“抽刀断水水更流,借酒浇愁愁更愁”等诗句,无非都是借酒解忧。诗与酒好像是一对孪生姐妹,一对比翼鸟。

另外,中国武术与酒也有着密切的关系。之所以武士喜欢喝酒,是因为他们借酒要表达自己的豪爽和尊重武术的精神。对武士来说,酒可以说是武艺与灵感的来源。最显著的例子是“醉酒拳”也就是“醉八仙拳”。这也是利用酒的功能来增强武术功夫的典型例子。

那日本人对酒有什么样的看法呢?日本有这句话:“酒有十德”,意为酒有“百药之首、延年益寿、旅游做伴、御寒代衣、馈赠佳品、解忧消愁、结交贵人、解除疲劳、万人同乐、独居之友”等十大优点。

在日本,下班后经常与上司、同事边喝酒边谈心,以加深人缘关系。因为古代日本人有一种共食习惯。以共同分食同一个容器内的食物,因而彼此就能血缘相通,互相结亲。这种传统意识一直影响到现在交往的习惯中。今天婚礼上的三三九杯,甚至建立义父子的关系时的亲子杯等等,这些都是这种共食信仰的表现之一。

虽然饮酒习惯有很多优点,但是饮酒是把双刃剑。我们年终去忘年会喝酒时常常说:“酒可喝,不可溺。”为了建立良好的人缘关系而一起喝酒聊天儿,可喝醉了闹事让对方扫兴的话,结果就得不偿失,弄巧成拙了。所以为了和睦相处为了健康,我们一起“文明饮酒”吧!

(日本語訳) お酒あれこれ

昔から今に至るまで、お酒は人々の生活に密接な関係があります。お酒を飲むことは嗜好の一つであるばかりでなく、すでに社会生活の様々な方面に浸透しています。とりわけ人付き合いやお客をもてなす面においては尚更です。

この事は私たち日本人にとっても同様で、お酒は日常生活に欠かせないものとなっています。

日本と中国は一衣帯水の隣国です。両国の交流には長い歴史がありますが、時の流れによって両国の文化には異なる点も生まれてきました。お酒を飲むということにおいてもそれぞれの風俗習慣が形成されました。

中国では長い年月を経て、お酒と人の間に切っても切れない固い絆が生まれました。昔の人はこの様に考えていました。「酒なくしては礼を成さず、酒なくして楽しみを成さず、酒なくして尊敬することを成さず、特に天地、先祖を祭るのに酒非ずして行えない」と。現在の中国人が客を招いてご馳走するとき、家の主人はひっきりなしに客に酒を勧めますが、時には無理やり飲ませようとすることさえあります。「酒は知己に会えば千杯は少なし」と言うように、酔うことでお互いの誠実さを確かめようとするのです。

お酒にはまた、愁いを解き、憂さを晴らす働きがあります。中国の古い詩の文句にはお酒に関する描写がたくさんあります。楽しい気持ちを歌ったものもありますが、やはり「愁」の字が共に登場する詩歌が圧倒的に多いです。例えば李白の歌った「刀を抜きて水を断てば水さらに流れ、杯を挙げて愁いを消せば愁いさらに愁う」等は、これこそ酒の力を借りて愁いを消そうとしていることを歌ったものです。この様に詩と酒はまるで双子の姉妹、あるいは一番の比翼の鳥、夫婦のようなものなのです。

また中国では武術と酒の間にも密接な関係があります。武術家が酒を好むのは、彼らが酒の力を借りて「自分の豪快さ」、「武術を貴ぶ心」を表そうとするからです。武術家に言わせると、酒とは武技と直感の源なのです。最も顕著な例としては「酔拳」つまり「酔八仙拳」でしょう。これなどは酒の力によってカンフーが強くなる典型的な例です。

それでは日本人はお酒に対してどのような考え方を持っているのでしょうか?日本にはこの様な言葉があります。「お酒には十の恵みがある」、つまりお酒は、「百薬の長、長寿延命、旅のお共、防寒着の代用、最高の進物、憂さを晴らし、素敵な人との出会い、疲労回復、万人共有の楽しみ、独り身の友」といった10のメリットがあると言うものです。

日本では仕事が終わると、お互いの人間関係をより深くするために、よく上司や同僚と一緒にお酒を飲みながら胸の内を明かします。これは、昔の日本人の食べ物に分かち合うという習慣によるものです。同じ器の食べ物をともに分かち合うことで、互いに血縁関係を結ぶというものです。このような伝統的意識は現代の人間付き合いにも影響を及ぼしています。今日結婚式で行われる「三々九度」や、ひいては義理の親子関係を結ぶ「親子盃(おやかさかずき)」等はみな、食べ物を分かち合うといったこの様な考え方によるものです。

お酒を飲むことには、このようなたくさんの素晴らしい点がありますが、しかし飲酒は諸刃の剣です。年末になり忘年会でお酒を飲む時期になると、このようなことがよく言われます。「酒は飲んでも飲まれるな」。せっかくより良い人間関係を築くために飲みながらおしゃべりをしていても、飲みすぎて酔っ払い、相手に不快な思いをさせたならば、元も子もなくなるばかりか、かえって逆効果になってしまいます。それなので、打ち解けて仲良くなるためにも、健康のためにもみなさん、「マナーある飲み方」をしましょう!

図書室 だより

今月の新着図書から(旅行編)

今月は、新たに配架した図書から、中国の旅に役立つ2冊を取り上げてご紹介したいと思います。そのほかにも、図書室には多数配架しております。お気軽にお越しください。

<今月の新着図書から>



・『中国の庭、台湾の庭—拙政園・留園・林家花園』 緒方賢一著 中国文庫

中国を旅して、中国庭園を訪れると、その美しさに感動して中国の庭園をもっと知りたい、と思うことがあります。しかし日本語で書かれた中国庭園を紹介する本は数少ないのが現状です。本書は、中国

の庭園の中でも、蘇州の拙政園、留園、台湾の林家花園、廈門の菽莊花園を取り上げて、その歴史や、その庭園との縁の深い人物との関わりを記しながら、詳しく庭園内を解説しています。

・『中国土特産物図典』
《図典》編集部 編著 江西科学技术出版社



北京の名物は北京ダック、陶磁器なら景德镇…というのは知っているけれど、ではその他の都市の名産は何だろう…と思った時に、この本が役に立ちます。この本は中国全土の458種類の名産・特産品をカラー写真付で紹介しています。

名産品は食品に限らず工芸品もあり、さらにそれらは、その地域のどこで買えるのかの案内もあります。地域別になっていますので、目的の地域の名産品をすぐに調べることができます。

<そのほかの新着図書>

- ・『ありえない中国騒乱、混乱、波乱！』 小林史憲 著 集英社
- ・『シナに魅せられた人々 シナ通列伝』 相田洋 著 研文出版
- ・『金融中国語入門』 柴田真一・陳茜 著 東洋経済新聞社
- ・『よくわかる中国語検定3級 リスニング篇』 斎藤敏康 監修 文楚雄・陳敏編著 郁文堂
- ・『中国人物伝 (第3巻) 大王朝の興亡』 井波律子 著 岩波書店
- ・『2014<中・上級編>論説体中国語読解練習帳』 三瀧正道 監修・著 西暢子・古屋順子・吉田祥子著 東方書店

- ☆中医学関係の書、配架いたしました。
- ・『其实中药不难学』 姬领会 杨志光 编著 中国医药科技出版社
- ・『经络穴位按摩速查图典』 赖镇源 编著 天津科学技术出版社
- ・『家用补益中药速查全书』 张彩山 编著 天津科学技术出版社

<今月の中国映画>

『あの子を探して』 原題：《一个都不能少》
監督：张艺谋 主演：魏敏芝，张慧科，高恩满，他

中国のとある農村の小学校で、教師が母親の病気で休職したため、1か月の代用教員として採用された少女敏芝。村は貧しく子供達は出稼ぎのため学校に来なくなることもあって、敏芝は教師から、「自分が戻るまで生徒を一人も減らさなければ、給料以外に10元支払う。」と言われ、1か月間教壇に立つことに。ある日クラスで一番のやんちゃ坊主、慧科が出稼ぎのため学校に来なくなった。敏芝は慧科を連れ戻すため、街に出て彼を探す決意をする。少女のひたむきさと、子供たちの屈託のない笑顔に心打たれる作品。1999年ヴェネチア国際映画祭グランプリ受賞。

<寄贈・お知らせ>

下記の方より、図書室に寄贈がありました。御礼申し上げます。

- 匿名希望様より
- ・映画『三姉妹・雲南の子』DVD
- ・小説『作男』、『暗訪黒帯』ほか
- 高野義博様より
- ・『成語大词典』
- ・『歇后语大词典』ほか多数
- 相原茂様(著者)より
- 『亜鈴式で鍛える中国語コロケーション999』 朝日出版社

中国語を長く勉強していても、なかなか中級レベルから抜け出せない。抜け出すには語彙力をつけること、コロケーション(語の組み合わせ=搭配)が大事。日常生活でよく使う999のコロケーションを収録して、しっかりと記憶定着させるための単語帳です。

- 益田(周)愛蓮様(著者)より
- 『a lotus ア・ロータス 百年漂泊』 創英社
(周愛蓮先生は、中国湖南省益陽市のご出身で、1962年から日本に住み、1972年からは日中学院で教鞭をとられていました。本書は、周先生の曾祖父の代からの100年の一家の苦難の歴史を描いています。)

☆本学院の学生であればどなたでも図書室を利用できます。図書貸出証は図書室で発行いたします。ご利用希望の方は図書室にお越しください。

☆図書室開室時間 月 - 金 12:00-18:45
土 12:00-18:00

2月の日中学院

日	一	二	三	四	五	六
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10 ●本科・日本語科 合同弁論大会	11 ●本科・日本語科・ 別科通常授業	12	13 ●本科3次募集 締切	14
15 ●本科3次試験 ●別科 1日集中講座	16 ●中国語検定試験 受付締切	17 ●本科3次合格 発表	18 ●日本語科 春節パーティ ●本科4次受付 開始	19 ●春節 ●本科 定期試験 (～25日)	20	21 ●武田一顕先生 講演会
22	23 ●日本語科 定期試験 (～27日)	24	25	26 ●藤堂先生 命日	27	28 ●日本語科 春休み(～4/9)
<p>●3月の日中学院 ・5日…日本語科成績発表 ・6日…本科4次受付締切 本科授業最終日 ・7日…別科公開講座 13:00～ ・8日…本科4次試験</p> <p>・10日…本科4次合格発表 ・11日…本科5次受付開始 ・12日…本科 成績発表 ・14日…本科・日本語科 合同卒業式 ・18日…本科5次受付締切 ・20日…本科5次試験</p> <p>・22日…中国語検定試験 別科256期授業最終日 ・23日…本科5次合格発表 ・24日…別科 春期集中講座(～28日) ・27日…別科 公開講座 18:45～ ・28日…別科 公開講座 13:00～</p>						

【耳目】

●映画『二重生活』公開

1月24日(土)より渋谷アップリンク、新宿K's cinema他にて公開！
とある事件。被害者の女性と数時間前まで一緒にいた男は、二つの家庭を持っていた…予測不能のくメロドラマ・ミステリー>！

カンヌ国際映画祭“ある視点部門”オープニング作品として上映され、会場を驚きの渦に巻き込んだロウ・エイ監督作品です。

別科講座を担当されている樋口裕子先生が字幕翻訳を担当されています。

日中学院事務局でも、チケットのお取り扱いをしています。是非ご覧ください。

<http://www.uplink.co.jp/nijyuu/>

●4月開講の別科パンフレットが完成しました！

2015年4月開講の別科パンフレットが完成しました。
ご希望の方は、郵送も出来ますのでお気軽にご連絡ください。



●中国語一日集中講座

2015年2月15日(日)
・中国語入門
・ちょっと話せる為の発音復習
・病院での中国語
・中国語文法
・中華まんを作ろう！
上記5クラスを開講いたします。詳しくは、HP又はお電話にてお問い合わせ下さい。

●お知らせ

多くの方からご要望頂いています学院のエレベータ設置ですが、構造検査の結果、現状では設置は難しいようです。何か良いアイデアはないかと、模索しています…

●「時に刻む木痕—中国新徽派版画展」

会期：2015年1月22日(木)～2月25日(水)
時間：10:00～17:00、入場無料、月曜休館
会場：日中友好会館美術館

唐代に始まり、精緻で秀麗な芸術的特徴がある中国安徽省発祥の“徽派”版画の中でも、現代の中国国内外で活躍する「新徽派」版画家達の代表的な作品約50点を展示します。木版を中心に、シルクスクリーン、水印木版、石版、銅版など、様々な技法を用いた版画も展示します。

●「中国結び展」

期間：1月2日～3月22日(日)
会場：埼玉県山西省友好記念館神怡館
9:00～17:00/火曜日休館
入場：一般200円
Tel：0494-79-1493
<http://www.shenyi.jp/>

一本のヒモを結び様々な模様を作る芸術。見る機会の少ない大型作品を展示します。

【編集後記】

節分を迎え、少しずつ春の足音が聞こえる季節になりますね。その足音を楽しみに過ごしていきたいと思えます。